

栄養やまなし No. 94

社団法人 山梨県栄養士会 〒400-0805 甲府市酒折 1 丁目 1 - 11 ☎055-222-8593 平成24年 1 月



平成23年12月 事務局入居ビル「日星ビル」4 階

1・2・3月の行事予定

疾病の重症化予防研修会	1月22日(日)・2月11日(土)	ぴゅあ総合
石坂恵子名誉会長県政功績者表彰受賞を祝う会	2月5日(日)	ぴゅあ総合
新人研修会	2月5日(日)	ぴゅあ総合
栄養士研究発表会	2月5日(日)	ぴゅあ総合
生涯学習研修会	2月25日(土)	ぴゅあ総合

目

次

新年のご挨拶

会長 田草川憲男…………… 2

案 内

平成 23 年度 疾病の重症化予防のための食事指導 担当者スキルアップ研修会開催のお知らせ……………	3
石坂恵子名誉会長県政功績者表彰受賞を祝う会……………	3
新人研修会……………	3
栄養士研究発表会……………	3
生涯学習研修会(第6回目)……………	3
* 第 26 回管理栄養士国家試験について *……………	3
平成 23 年度(第 22 回)研究発表会 (山梨県ミニ栄養改善学会)発表要旨……………	4

平成 23 年度 写真で見る栄養士会の主な活動…………… 5

ニュース

公益社団法人移行について……………	7
出前栄養相談(児童館食育事業)……………	7
平成 23 年度「児童福祉施設における クッキング講座」の報告……………	7
平成 23 年度 植物油講演会……………	8
いきいき山梨ねんりんピックでの栄養相談の取組み……………	8
県民の日のイベントに参加して……………	9
「第 28 回山梨県民歯科保健のつどい」に……………	

共催団体として参加協力して…………… 9

特定保健指導に従事する管理栄養士の募集について……………	9
疾病の重症化予防のための食事指導活動拠点 整備事業について……………	10
東日本大震災の支援に参加して・義援金報告……………	10

「私がんばってます」…………… 11

県政功績者表彰…………… 15

厚生労働大臣表彰…………… 15

知事表彰…………… 16

日本栄養士会会長表彰…………… 18

職域部会のコーナー

学校健康教育部会……………	19
行政部会……………	19
研究教育部会……………	20
集団健康管理部会……………	20
地域活動部会……………	21
病院部会……………	21
福祉部会……………	22
平成 23 年度 理事業務分担表並びに委員会名簿……………	23
謹んで新年のお慶びを申し上げます……………	24

会費納入案内・編集後記…………… 26



新年のご挨拶

管理栄養士・栄養士の手で 県民の健康づくりをすすめよう

社団法人 山梨県栄養士会会長 田草川 憲男

あけましておめでとうございます。平成24年度は、公益社団法人としてスタートする年です。県民の皆さんに公益性のある法人として活動していくためにまず、次のことを皆さんと一緒に進めていきたいと思います。

「健やか山梨21」のこと

山梨県の健康づくり計画である「健やか山梨21」は、平成13年3月に策定され、平成13年度を初年度としてスタートいたしました。平成18年に中間評価及び見直しを行い、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の概念を導入した生活習慣病対策の重要性などを盛り込んだ「健やか山梨21—2006年版」に改訂されました。更に、内臓脂肪型肥満に着目した「健やか山梨21—2008年版」に改訂されました。

「食育推進計画」のこと

山梨県では、平成18年12月に「やまなし食育推進計画」を策定し、県民運動として様々な食育の取組が進められてきました。更に、国の新たな基本計画（「第2次食育推進基本計画」）を踏まえ、平成23年8月「第2次やまなし食育推進計画」を策定・公表いたしました。

管理栄養士・栄養士の役割

以上のことから、県民の皆さまの健康づくりのために、私達は次のことを心にいつも留めて日常業務や活動の中で生かしていきたいものです。それが、公益社団法人としてのまた、管理栄養士・栄養士としての役割だと思います。

「健やか山梨21—2008年版」の「栄養・食生活」における「健康課題への取組み」に関わること 取組の方向性

- 1 食育の推進
- 2 健康的な食生活のために必要な情報の提供
- 3 食事バランスガイドの普及
- 4 自主活動グループによる食生活改善活動の促進

達成指針

- 1 野菜の摂取量の増加（1人1日 350g以上）
- 2 朝食を欠食する人の減少
- 3 適正体重を維持している人の増加
- 4 脂肪エネルギー比率の減少
- 5 食塩摂取量の減少

「第2次やまなし食育推進計画」に関わること

- 1 望ましい食習慣の定着とバランスのとれた食生活実践の普及
- 2 家族一緒に食事をする「共食」の推進
- 3 食への感謝の気持ちを醸成する体験活動の普及
- 4 地産地消の一層の推進と特色ある食文化の継承
- 5 食育県民運動の展開による「生涯食育社会」づくりの推進

結び

県民の皆さまの健康づくりを通して、幸せな生活を送るために、管理栄養士・栄養士には、山梨県が掲げたこれらの計画を推進する役割が求められています。会員一人ひとりが、常に普及啓発や自ら実践し期待に応えるよう活動の輪を広げていきましょう。

案内

平成23年度 疾病の重症化予防のための食事指導担当者スキルアップ研修会開催のお知らせ

糖尿病等の疾患の重症化予防を目的とした食指導の実施体制の整備を図るため、病院や診療所で地域特性や個々の患者の状態に応じた指導を行うことの出来る管理栄養士・栄養士の活用促進に向けたスキルアップ等の研修会を行います。多数の方の受講をお待ちしています。

と き 平成24年1月22日（日）および2月11日（土）の2日間 9：30～

ところ ぴゅあ総合

甲府市朝気1-2-2

TEL 055-235-4171

申込みが必要です。くわしくは、同封の開催通知をごらんください。

石坂恵子氏県政功績者表彰受賞を祝う会のご案内

と き 平成24年2月5日（日）

ところ ぴゅあ総合

くわしくは、同封のご案内をごらんください。皆様でお祝いするため会員の皆様のご参加をお願いいたします。

新人研修会

と き 平成24年2月5日（日）

10：30～12：00

ところ ぴゅあ総合

内 容 栄養士業務歴5年未満の方を対象に日頃の栄養士業務等の悩みなどを先輩栄養士と話し合い、今後に役立てていただきたいと思います。

研究発表会

と き 平成24年2月5日（日）

13：00～15：30

ところ ぴゅあ総合

内 容 各職域部会の代表者による研究発表8題

生涯学習研修会（第6回目）

と き 平成24年2月25日（土）

10：00～15：40

ところ ぴゅあ総合

講 演 10：00～11：30

演 題 山梨の食文化

～縄文時代の農耕の可能性～

講 師 山梨県立博物館

学芸課長 中山 誠二

シンポジウム（必須）（12：30～15：40）

テーマ「他の職域の栄養士活動への理解を深めよう」

各職域部会員がシンポジストになっていただきます。

* 第26回管理栄養士国家試験について *

試 験 日 平成24年3月18日（日）

願書受付期間 平成24年1月6日～1月13日

厚生労働省より受験要領・願書が山梨県栄養士会事務局に届いています。

必要な方は郵送料として切手200円を同封し

て山梨県栄養士会に申し込んでください。希望者に郵送いたします。

☆管理栄養士資格取得後は栄養士会に、資格変更のご連絡をお願いします。会員証の資格欄を変更いたします。

平成23年度（第22回）栄養士研究発表会（山梨県ミニ栄養改善学会）発表要旨

日 時 平成24年2月5日（日）
13時～15時30分
会 場 ぴゅあ総合（男女共同参画推進センター）
内 容 各職域部会より研究発表8題

①学校健康教育部会

都留市立谷村第一小学校 高尾 順子
演題：「豊かな心を持ち、いきいきと主体的に学び実践する子どもの育成～子どもが意欲を持てる活動を生かした食育を通して～」

本校では、今年度の校内研究のテーマに食育を掲げ、給食時間の指導の充実を始め、教科や学級活動、児童会活動など様々な場面で、保護者や地域と連携を取りながら食育を実践してきました。その様子を発表します。

②行政部会

峡南保健福祉事務所 久保田 佑子
演題：「消防団員に対する生活習慣アンケート調査から食生活改善推進員の活動を考える」

峡南地域の消防団員を対象に食生活を中心とした生活習慣の調査を行い、実態を把握して働き盛りの男性に対し、食生活改善推進員がより実情に沿った効果的な活動を展開できるように支援する

③研究教育部会

山梨学院短期大学 岡本 裕子
演題：「男子大学生スポーツ選手の個人競技と集団競技による食意識、食物摂取状況等に関する比較検討」

個人競技者では、食事への関心、食物摂取頻度、栄養知識の全てが高い結果であった。集団競技者に対する食生活習慣の改善や競技力向上を目指した食事の摂り方等の指導を強化していくことが必要といえた。

④集団健康管理部会

財団法人 キープ協会 キープ自然学校 大柴 由紀
演題：「大学生アメリカンフットボール夏季合宿の食事管理について」

当財団の創設者故ポール・ラッシュ博士は、アメリカンフットボールを日本に紹介した第一人者であり、縁の深いR大学の夏季合宿が毎年

行われる。

スポーツ合宿において、期間中の「食事」は選手の体力増強、体重管理に加え、日常食への理解と役割は大きく、本報ではその詳細についてご報告させていただきたい。

⑤地域活動部会

沢登 京子
演題：「社会福祉協議会 生活訓練事業」

「障害者社会参加促進事業」の“生活訓練調理実習”及び健康ミニ講話を障害別と各毎月1回実施して7年がたちました。地域の中で自立した日常生活が送れる事を願いながら社会福祉協議会でも“必要とされる栄養士”について紹介、発表させていただきます。

⑥病院部会

公益社団法人 地域医療振興協会
上野原私立病院 鶴切 聖子
演題：「肥満症の栄養指導報告について」

SMさん、37才男性 職業事務 身長174cm、体重108kg、BMI 35.6
1800kcalのエネルギー制限食にて栄養指導開始。目標体重90kg台、以後継続指導 体重107kgにて停滞中

⑦病院部会

山梨大学医学部附属病院 荒川 元喜
演題：「摂食・嚥下困難患者に対する他職種による取り組み」

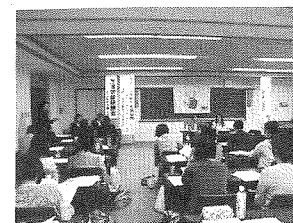
急性期病院（大学病院）における摂食・嚥下困難患者に対して、他職種（医師、看護師、栄養士、言語聴覚士など）が携わっている、嚥下対策チーム（チーム嚥下）の活動について報告する。

⑧福祉部会

介護老人保健施設 しおかろ福寿の里 田村 礼江
演題：「お食事を召し上がれ～お食事を拒否した方への働きかけ～」

認知の障害によって不安な日々を送り、食事摂取がなかなかすすまなかった入所の女性に、栄養ケアマネジメントを通して安心して食事をしていただけるようアプローチした一例。

平成23年 写真で見る栄養士会の主な活動



平成23年度通常総会



来賓



大臣・知事表彰者を紹介



生涯学習修了証明書交付



新食材等の展示会



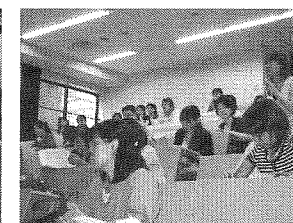
賛助会員からのおみやげ



東日本被災地支援者に支援物資



生涯学習研修会



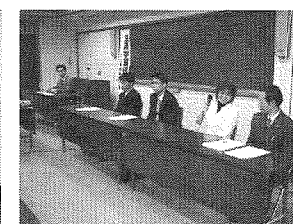
シンポジウム（生涯学習研修会：必須科目）



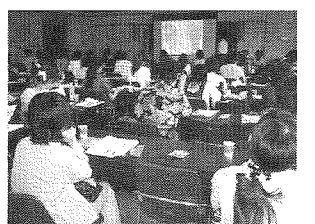
生涯学習研修会



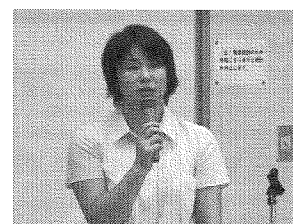
理事会



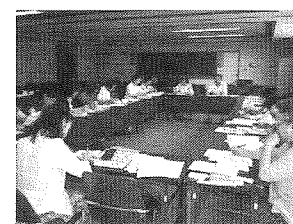
公益法人申請手続き



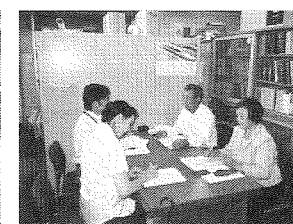
特定保健指導研修会（旭化成）



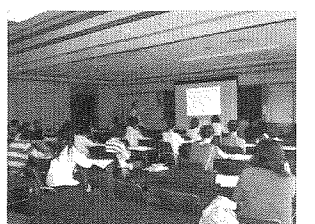
日栄総会



中村丁次日栄会長



健やか山梨21「樹海ウォーク」栄養相談



平成 23 年 写真で見る栄養士会の主な活動



ねんりんピック：健康・栄養情報コーナー

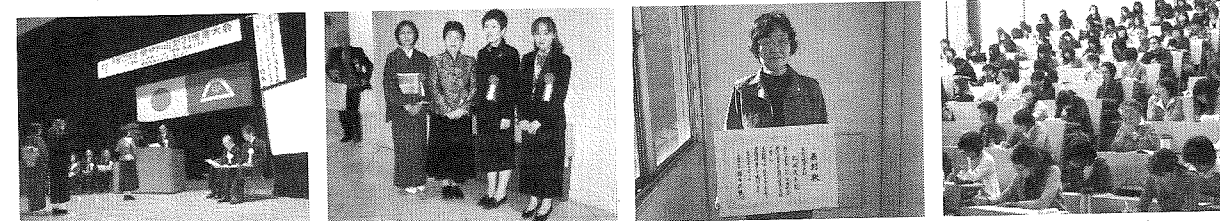
サットシステムによる栄養診断と栄養相談



特定保健指導研修会（保健教育センター）

小沢代議士との懇談会

栄養やまなし編集委員会

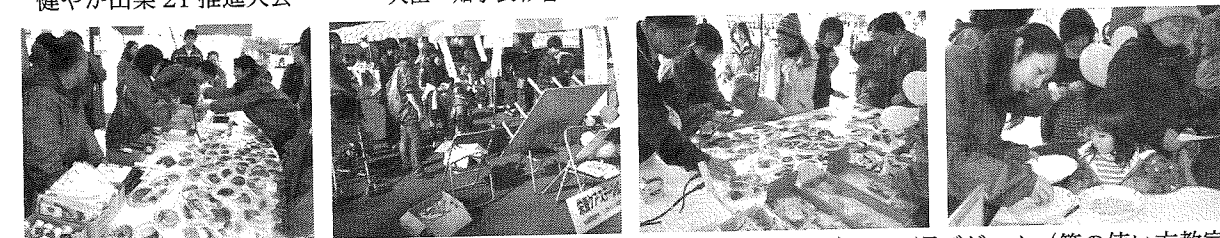


健やか山梨 21 推進大会

大臣・知事表彰者

県政功績者表彰

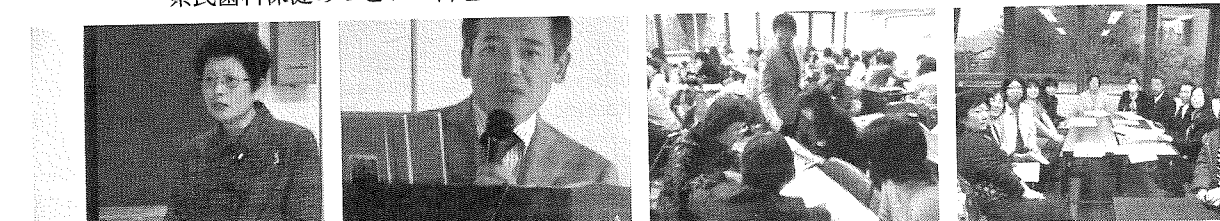
植物油講演会



県民の日：料理カードによるパソコン栄養診断・相談、食事バランス輪投げ、マメ運びゲーム（箸の使い方教室）



県民歯科保健のつどい：料理カードによる食事診断と相談 ペーパーサートと電子紙芝居



生涯学習研修会：依田萬代先生、NHK・ためしてガッテンプロデューサー北折一先生

生涯学習委員会



事務所移転：JR 中央線 酒折駅前 日星株式会社 4F

新事務所室内

ニュース

公益社団法人移行について

山梨県栄養士会は平成 24 年 4 月 1 日より「公益社団法人」として活動を開始します。

社会的な信頼・信用を得るにふさわしい実態を備え、社会的権威をもった、真に「公益」のための法人の誕生です。

かねてより、公益社団法人の移行にむけて準備しておりましたところ、平成 23 年 8 月 19 日に開催された山梨県公益社団法人認定審査会において、山梨県栄養士会の公益社団法人化が承認されました。これにより、会計年度の平成 24 年 4 月 1 日より、新たに「公益社団法人山梨県栄養士会」として出発します。これからも、会員相互に力をあわせ、公益社団法人組織としての役割を果たしていきましょう。

出前栄養相談（児童館食育事業）

今年度も昨年に引き続き出前栄養相談食育事業を 26 ヶ所の児童館で行ってきました。対象は子育て中の保護者の方、幼児そして学童のみなさんです。

今年度の目標は「早寝・早起き・朝ごはん」「正しいよい食習慣を身につける」「食べるのが好きになる子」の 3 つを掲げました。

保護者を対象に「幼児期のよい食習慣は健康でいられる一生の宝」であることについてとバランスガイド等を話しました。学童のみなさんには箱や風呂敷のなかに野菜や果物を隠して、クイズ形式で楽しみながら、多くの食材を知ってもらいました。

これからも健全な食生活の実践に向けて食べることの大切さを身につけられるような角度から努力しています。

（文責 地域活動部会 小澤 與志美）

平成 23 年度「児童福祉施設におけるクッキング講座」の報告

「保育所保育指針」が平成 21 年 4 月に施行され、新たに食育の推進が盛り込まれたことにより、保育所だけでなく他の児童福祉施設においても同様に「食育の計画づくり」が求められています。また、児童福祉施設での食事の提供及び栄養管理を実践するにあたっての考え方も示されました。

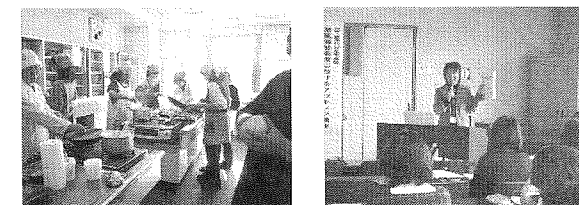
これらを踏まえ、子どもの「食」を通じた健康づくりの推進を図るため、生活習慣病予防に役立つ健康食品と高く評価されているスキムミルクを素材とした調理実習を行い、給食に取り入れ役立てるとともに「栄養管理・衛生管理」「食育の推進」における

実践事例をもとに講義を聴講し、栄養士等の知識向上を目指すことを目的とした研修を開催することができました。この事業は日本栄養士会、全国福祉栄養士協議会、児童育成協会、山梨県栄養士会が主催、児童福祉施設栄養士会共催として実施することができました。開催するにあたり、県栄養士会 田草川会長、山本事務局長には、多忙の中精力的にご支援ご協力をいただき実施することができましたこと心から感謝申し上げます。おかげさまで参加者も他園の栄養士等と和気あいあいと久々の調理実習を喜び、給食に取り入れたいと好評でありました。講義についても「栄養管理・衛生管理等、又保健所の巡回指導」の説明をしていただいたことで、より理解できました。北杜市の「食と農の杜づくり課」は行政が率先して食育活動を推進している事例紹介などとても良かったと喜んでいただき自園での食育活動の取り組みをさらに深めるきっかけとなりました。

現状は福祉部会の保育園だけが栄養士配置になっていません。日々の活動を記録に残し、他職種との連携の中で栄養士だからこそできる専門性を生かしていく努力を、そして「食育推進メッセンジャー」として貢献したいものです。

研修内容は次の通りでした。

- | | |
|-----|---|
| 期 日 | 平成 23 年 11 月 26 日（土） |
| 会 場 | 山梨県立男女共同参画推進センター
ぴゅあ総合 |
| 参加者 | 調理実習 46 名
講義 56 名 |
| 内 容 | ①調理実習「スキムミルクへの理解を深める」
講 師：宮前保育園 望月 麻里子氏
献立内容 カルライス・鮭のオーロラソース焼き・春雨の中華炒め
ミネストローネ・スイートビーンズ・ミルクティー
②講義「保育園給食における栄養管理と衛生管理について」
講 師：峡東保健福祉事務所
副主幹 沓川 洋子氏
講 義「食育推進活動の紹介」
講 師：北杜市役所
主事 高橋 夏美氏
（文責 福祉部会児童部 沢村 和子） |



平成 23 年度 植物油講演会

平成 23 年 11 月 4 日、山梨学院短期大学において開催されました。

参加者は 182 名で、そのうち山梨学院短期大学生 80 名も一緒に受講されました。

この講演会は、近年、脂肪に関する研究、知見等は劇的に変化し、健康の維持・増進、疾病等とのかかわり、高齢者の ADL の維持・向上の観点や、摂取する際の環境や食べ合わせ、時間との兼ね合いも科学的に証明されてきています。

そんな中健康志向の油、原材料、トランス脂肪酸などの情報が氾濫し、食の安全性についても話題として取り上げられています。私たち管理栄養士・栄養士が、日々の業務の中で、これらの情報を適切に把握・整理し、わかりやすく伝え、実践できるための知識の習得を目的として、日本栄養士会の委託事業を受けて開催されました。

まず「知っておきたい植物油の基礎知識入門」と題して、社団法人日本植物油協会の神村義則専務理事より、植物油の雑学基礎を、油を売るとい立場から、分かりやすくお話をしていただきました。

「植物体が含有する油分を搾出・抽出して得られたもの」を植物油として国際食品規格で規程していること。

人類が紀元前 600 年頃、古代ギリシャやローマ時代から植物油を灯火や食用、化粧品として利用して来たこと。日本でも有史以前から灯りとして動物脂肪や魚油が利用され、奈良時代にはかりんとうの原型となる菓子にごま油を利用していた記録が残っていることなど、人類が植物油を使ってきた歴史なども交えながら、植物油の原料や、植物油に含まれる有用な成分、トランス脂肪酸の今後の課題、遺伝子組換えに関わる話題等盛りだくさんの情報をいただきました。

コーヒープレイクをはさみ次に九州大学・熊本県立大学の菅野道廣名誉教授より、「新しい油脂栄養論」と題し、講演をいただきました。

脂肪の構造や食品中に含まれる脂肪酸の種類などの基礎知識、脂質が効率的なエネルギー源であること、また必須脂肪酸や脂溶性ビタミンなどの供給源など、一般的な栄養機能の話し、また飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸が体内に入ってから働き、性質などを最新の情報を交え詳しく、話して頂きました。最後に日本人の脂質の摂取状況、食事摂取基準より脂質の適正な食べ方にふれられ、脂質栄養の考え方として

- ・「量」だけでなく、「質」と「バランス」にも考慮する。
- ・個々の脂肪酸だけに注目せず、摂取脂質全体のレベルで判断する（トランス脂肪酸）。
- ・リノール酸、α-リノレン酸だけでなく、それらの代謝産物（アラキドン酸や EPA、DHA）の摂取にも注意する（乳幼児・高齢者・疾病時等）。
- ・トランス脂肪酸問題には、冷静に対応する。

・エネルギー摂取量が同じなら、脂質（とくに n-3 系多価不飽和脂肪酸）糖質より肥満をもたらさない。

「100%安全な食べ物はない」あるのは「安全な食べ方」と「正しく怖がること」が大切。栄養学で説く食事指導は健康には「名案」だが、人生にとっては「愚案」かもしれない。おいしく食べることは「QOL」の基本。これらにおいて、「管理栄養士・栄養士の出番だ」とまとめられた。

（文責 行政部会 宮川 善美）

いきいき山梨ねりんピックでの栄養相談の取組み

平成 23 年 9 月 24 日（土）小瀬スポーツ公園において「いきいき山梨ねりんピック」が開催されました。さわやかな青空のもと、高齢者のスポーツを中心に、福祉、文化など幅広い分野でたくさんイベントが行われました。

山梨県栄養士会のメンバーも 20 名程が 2 カ所に分かれて協力参加しました。

1 つは、国保いきいき広場のブースで、SAT システムによる栄養アドバイス、もう 1 つは、栄養士会独自のコーナーで、栄養診断と相談を行いました。

私は後者の方に協力したのですが、「食事の診断をしますよ」と声をかけると興味を持たれる方が多く、50 名近い方が立ち寄ってくださいました。まずアンケートに答えていただきパソコンに入力し、その結果についてアドバイスをするというものでした。

アンケートでは、質問の内容を取り違える方もいらっしゃって、結果があまり良くないことに驚く場合もあり、高齢者の方には特に一緒に読みながら答えていただく方法が必要だと思いました。後で説明をする際、本当はちゃんと食べていたということが多かったようでした。

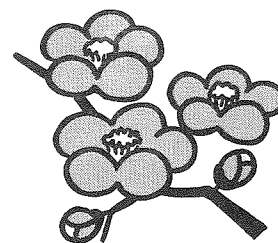
このイベントに参加する高齢者は、お元気で食事にも気を配っていらっしゃる方が多いので、極端に偏った食事をされている方は余りいらっしゃいませんでした。

また、別に質問だけをするために来られる方もいらっしゃって、こちらの知識も幅広く持っている必要性を感じました。

山梨学院短期大学の学生 3 名がボランティア活動として参加されました。

充実した楽しい 1 日となりました。

（文責 研究教育部会 辻 敏子）



県民の日のイベントに参加して

11 月 19 日（土）・20 日（日）の両日、小瀬スポーツ公園において「第 26 回県民の日記念行事」が盛大に開催されました。栄養士会では、大豆を使用した「豆運びゲーム」、「食事バランス輪投げゲーム」、「料理カードを利用した食事バランスチェック」を行い、2 日間で 520 名の方に参加していただきました。

豆運びゲームでは、はしを使って大豆を隣の皿に 1 分間で何粒運べるかのゲームで、子どもから大人まで楽しんで参加されていました。今回の最高は、1 分間に 52 個も運ばれた方がいて感心してしまいました。中学生がグループで挑戦していましたが、上手くはしが使えることができなく苦勞していました。正しいはしの持ち方のパンフレットを見ながらアドバイスしましたが、小さい頃からの習慣が大切だということを感じ、学校においても家庭においてもきちんと指導をしていく必要があることを感じました。

食事バランスチェックコーナーでは、子どもから高齢の方まで沢山の方に普段食べている食事を料理カードから選び、その食事のバランスはどうか、その人にあった量であるかをパソコンで判定し、それによりアドバイスをしていくものですが、普段の食事を見直すよいきっかけとなったようです。

山梨学院大学、短期大学の学生が総勢 12 名ボランティアとして協力をしていただき、元気で明るい学生達でとても楽しかったです。今回栄養士会の一員として協力させていただき、他の部会の方々と交流を持つことができ忙しい中も楽しい時を過ごすことができました。これからも積極的に協力をしていきたいと思ひます。

（文責 学校健康教育部会かえで支援学校 窪寺 ゆかり）

「第 28 回山梨県民歯科保健のつどい」に共催団体として参加協力して

強風の 12 月 4 日、甲府市総合市民会館（山の都アリーナ）において開催されました「第 28 回山梨県民歯科保健のつどい」に山梨県栄養士会は昨年同様共催団体として「栄養士会事務局・各職域部会 会員」及び「山梨学院大学 健康栄養学部 1 年生 3 名」の方々の協力を得て参加致しました。

実施内容は「料理カードを利用した栄養・食生活相談」「ミニ公開講座（エプロンシアター）」です。

早朝から集合し、多くの県民が「食」に対し興味を持ち集まってくださる様、それが明日からの健康な食卓への手助けになるようなブースの設営に会員の知恵を出し合い創意工夫した明るいコーナーができました。

また、地域活動部会立川会長を中心に山梨学院大学の学生さん（未来の有望な管理栄養士）がエプロンシアターの練習をし上演に向けて頑張りました。

ミニシアターは今年度会場を総合市民会館の芸

術ホールに移し、本格的にステージでの上演となり、楽しくためになるお話で好評のうちに終了致しました。いろんな大道具・小道具の準備や、舞台袖でのパソコンの操作など大活躍でした。

栄養・食生活相談は「昨日の夕食・よく食べる夕食」として、子供から老人まで幅広い年齢層の方が料理カードを選ぶのを会員が一人一人につきながら記録し、その後パソコン入力により診断が出たらアドバイスをするという流れで 100 名以上の方が相談に訪れました。

開始から休みなく入力作業をなさって下さった健康教育部会の藤井先生、協力会員全員が一致団結し「山梨県栄養士会」をアピールした一日でした。

心に残った来訪者：今年 91 歳になるという勝沼からお一人で参加のおじいちゃん「3 つ質問してもいいかね？」と。

- ① かかりつけの先生から塩分を減らせと言われてたがその意味を教えてほしい。
- ② 「ウコン」「ローヤルゼリー」「青汁」など、いろいろあって進める人がいるが、それは取り入れたほうがいいのか？
- ③ これからも元気で暮らしたいけれど、3 食をどのように食べたらいいか？

本当にしっかりしていて、こんな風にきちんと齢を取りたいと私は思いました。

この様に必要されている栄養士会を、今後もいろんな場面でアピールし県民の役に立ってほしいと思った一日でした。

栄養・食生活相談コーナーの責任者として、協力して下さった会員の皆様の熱意に感謝しご報告とさせていただきます。

（文責 山梨赤十字病院 深澤 幸子）

特定保健指導に従事する管理栄養士の募集について

本会は、平成 19 年度に特定保健指導に従事する管理栄養士・栄養士の養成講習会を実施し、その後従事希望者を対象にスキルアップ研修会を開催しました。

平成 22 年 12 月 1 日より、特定健診・特定保健指導機関として、保健指導を実施しました。

平成 22 年度は「中央建設国保」の保健指導を 49 件実施し、平成 23 年度は、山梨県職員共済組合の保健指導を 100 名受諾し、現在実施中です。

また、会員の自主グループでは、保健指導企業の依頼による特定保健指導の実施も活発に行われており、事例検討会などもたびたび開催しているところです。

今後も保健指導の依頼が増えることが予想されます。

このため本会は、特定保健指導に従事する管理栄養士を対象にしたスキルアップ研修会を開催しました。さらに、より多くの管理栄養士に参加していただきたいと思っています。

そこで、あらたに特定保健指導に興味のある管理栄養士の方は事務局にお問い合わせください。

なお、次回の研修会は、総会号でお知らせする予定です。

疾病の重症化予防のための食事指導活動拠点整備事業について

病院部会 真野 芳彦

(社)日本栄養士会では、管理栄養士・栄養士の業務分野ごとに業務の実態・課題を把握し、専門性(業務の質)の向上を図る方策について調査研究を行うため、厚生労働省の委託を受けて、平成23年度疾病の重症化予防のための食事指導活動拠点整備事業に取り組んでいます。

私は、7月から事業整備計画策定のためのワーキンググループに関東ブロック代表として参加しています。この事業のねらいは、診療所による食事指導業務を拡充させることによって、生活習慣病の治療に必要な食生活の改善を図り、糖尿病を初めとする疾病の重症化を防ぐことにあります。ただし、診療所の食事指導は、糖尿病等の専門外来の施設以外では管理栄養士が常勤もしくは非常勤で所属することが珍しく、一般診療所での食事指導は充実していません。その診療所で管理栄養士が活躍できるよう目指して行きたいと考えています。

糖尿病等の疾病の重症化予防を目的とした食事指導の実施体制の整備を図るため、診療所等で地域特性や個々の患者の状態に応じた食事指導を行うことのできる人材の育成が求められています。

現在、子育てのために実務から離れている方、退職されている方、新卒で就労されていない方、管理栄養士を目指す栄養士の方、またはクリニック等での食事指導業務に興味をお持ちの方達を対象((社)日本栄養士会会員以外の方でも参加可能です。)に知識を身に付けて頂きたいと考えています。

山梨県栄養士会では、そのためスキルアップ研修会を開催いたします。診療所の食事指導が初めての方でも、診療所の特徴や医師とのコミュニケーションを取るコツなど、診療所で仕事をするためのイメージ作りや食事指導に必要な知識が得られるようなカリキュラムになっています。もちろん、今回の研修会以降も、充実した食事指導業務が実現できるように支援いたします。今回のスキルアップ研修は2日間に渡って開催されます。

人材育成が実現した後は、次に管理栄養士が活躍する場となる診療所との連携が必要になります。その診療所との連携は、栄養士会が設置している栄養ケアステーションが担います。その拠点整備として、充実したフォローアップ体制が構築できるように(社)日本栄養士会と共に各栄養士会のワーキンググループが思案中です。

管理栄養士が疾病の重症化予防という社会貢献が出来るように、皆様のご協力とご支援を承りたいと存じ上げます。(開催要領等は、P3及び同封の開催通知を参照してください)

東日本大震災の支援に参加して

山梨県立北病院 平井 美樹夫

善意の無農薬の小松菜が届き、日持ちしないからとすぐに避難所に配られましたが、避難所に着いたときは幼虫が葉を食べて茎だけになっていました。アメリカの軍隊用携帯食も、脂っこくてまじいと食べられず、避難所から仮設住宅に出て行く人に渡されていました。避難所に置いてあったヨーロッパの硬水もおいしくないとり残されていました。支援の心は大切ですが、相手の立場で使えるもの送ることが重要です。また異文化の善意も使いこなせる応用力のある栄養士でなければと思いました。山梨では震災後主要道路は3日程度で回復すると思いますが、当院のような田舎の給食施設では1週間程度の孤立対策が必要と覚悟ができました。

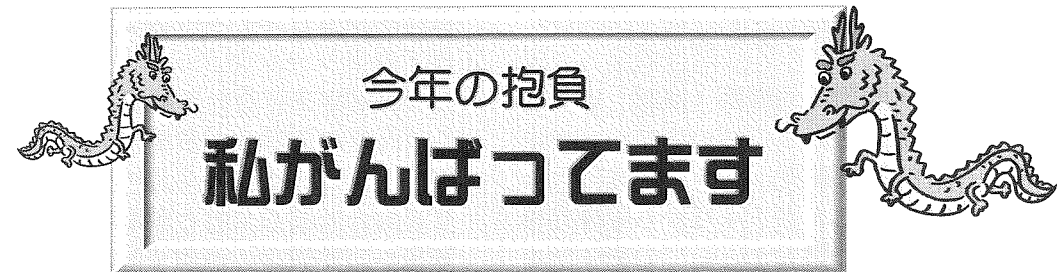
東日本大震災の支援に参加して

病院部会 深澤 幸子

平成23年3月11日午後 勤務中突然の激しい揺れと同時に停電!場所がら「富士山噴火」と、私たちは一瞬思いました。大震災の現状を理解したのは停電が解除された翌日の明け方でした。震災当日から勤務先のDMA T 班は次から次へと出勤、救護班も切れ目なくでいく中で私たち栄養士にも、支援出来る事があるはず・・・と毎日想いながら救護に出かける職員を見送っておりました。そんな時日米の支援活動の事を知り「さあ、行かなくちゃ」と登録しました。現地集合・現地解散、自己完結での行動・初めての支援活動・・・実は不安でいっぱいでした。5月石巻行きが決定 遊学館を拠点に福祉避難所の食事に関わる支援でした。支援物資も理解できるスタッフがいないため、なかなか有効利用できていないのを整理し、朝食の組み合わせのモデルを伝達したり、避難所の方々にほっとして頂けるような食事支援を心がけ、翌週からの献立作成・発注を完了し、それが継続できるように伝達して石巻を後にしました。8月再び釜石・大槌行きが決定、今回は遠野を拠点に釜石保健所・釜石地域包括支援センターの保健師・管理栄養士と仮設住宅の訪問に同行したり、日米の支援者に任されて仮設住宅の訪問をしました。遠野の拠点から約一時間位毎日レンタカーを運転しての移動と、仮設への移動も、もちろん自分たちでの移動でした。仮設には入れれば何とか・・・と思っていた私には、衝撃的な現状が目前にありました。まだまだ、元の姿には戻れない被災地・・・これからも機会があれば支援していきたいと思えます。阪神・中越 今までは栄養士会でこのような活動は無かったけれど、今回は本当に組織的な活動を展開できたことを誇りに思います。

災害支援金の拠出

山梨県栄養士会では、東日本大震災災害支援金として、平成23年6月28日に100,000円を日本栄養士会を通して、被災地にお送りしました。



「特別支援学校における食育～個別対応の必要性～」

やまびこ支援学校 山下 ますみ

私の勤務するやまびこ支援学校は大月市にあるのですが、自宅から片道42kmの道のりを1時間かけて車で通勤しています。ほとんどの子どもはスクールバスや保護者の送迎で通っていますが、遠方に住む子どものために、敷地内に寄宿舎が併設されています。給食の状況は、単独校方式で朝・夕各11食、昼145食の給食を提供しています。

ここでの私の業務は①学校給食、寄宿舎食の献立作成・発注②給食管理③衛生管理④食に関する指導の4つに大別されます。この中から一番課題が多く、難しいと感じている「④食に関する指導」についての取り組みを紹介します。

本校には、小学部児童から高等部の生徒までおり、嗜好の幅、摂食量の違いも大きく、食べる機能の発達に個人差もみられます。代謝障害を伴っていることもあり、H23.4実施の健康診断結果では肥満度20%以上の割合が全体の25%を占めていました。障害の種類や程度、日常生活の活動レベルも多様である児童生徒の食に関する実態を把握し、見つかった課題も含めて本校オリジナルな食育を行いたいと考えました。学校全体としては【食に関する指導の全体計画】を学校教育目標にそった形で作成し、それをもとに学校給食年間指導計画を作成しました。肥満傾向や自閉症、咀嚼・嚥下調整の必要な児童生徒へは、食器の変更や盛りつけの工夫、調理方法の変更などを行い個別に対応します。それ以外にも給食週間でのイベントの開催や校内放送を活用し、給食の食材や行事にまつわる話をクイズなどにして説明しました。家庭との連携としては学校以外での食べ物、特におやつについて調べることを目的にいつ、何を、どのくらい食べているのか等の選択式アンケート調査を行いました。その結果を集計し、児童生徒たちにはスナック菓子やジュースなどの空き容器を使って給食時間中に実物で指導を行ったり、保護者へは給食だよりを通じて結果や課題、改善策などの情報を提供しています。今後は食に関連する教科と自立活動との連携を図りながら、

教材となる給食をより充実させていき、児童生徒1人1人の食に関する指導の目標を教員の作成する個別指導計画に盛り込んでもらえるように教職員への働きかけをおこなっていきたいと思っています。

「感謝・努力・初心」

北杜市役所健康増進課 堀内 真理子
新年明けましておめでとうございます。

北杜市役所に就職してからもう少しで1年になります。去年のことを振り返ると、震災で中止になった大学の卒業式や余震がある中での国家試験、就職、合格発表というあわただしい中での社会人生活のスタートでした。

それからあっという間に1年が過ぎました。栄養士として働き始めて、最初は業務内容を覚えることに手一杯でした。それと同時に、大学で学ぶことと現場で必要とされる知識・スキルの違いの大きさを改めて痛感しました。また、行政における栄養士という専門職の意義や、1年目の新人も10年目のベテランも市民から見れば同じ管理栄養士として専門性を求められるというプレッシャーを強く感じました。しかし、そのプレッシャーを乗り越えられたのは、ほとんどの職場が1人しか栄養士が配置されない中、私は幸運なことに尊敬できる先輩達に恵まれ、多くを教わることが出来る状況にいるからです。先輩の知識・経験の豊富さや技量の差を感じて自分自身に自己嫌悪を抱くこともありましたが、今の自分に出来ることに全力で取り組み、それと同時に先輩から様々なことを学んでいこうという前向きな気持ちになりました。

これからは日々感謝の気持ちを持ち、努力を惜しまず、初心を忘れず、早く一人前になれるよう自分に厳しくしていきたいと思えます。また、他所属の栄養士の方々をはじめ、様々なつながりの中で成長していけたらと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「クッキングハウスだより」

山梨学院大学附属幼稚園 窪田 ありさ
新年明けましておめでとうございます。

昨年3月、「東日本大震災」という日本にとって大変なことがありましたが、4月から附属幼稚園のクッキングハウスで栄養士としての新生活を無事にスタートさせることができました。短大時代の実習先であった、附属幼稚園給食室。栄養と健康について学ぶため食物栄養科に進んだ私が、子どもの栄養についてより一層興味を持つきっかけとなったこの幼稚園で自分が栄養士として働くことができ、大変嬉しく思っています。

給食室は、昨年2月に改築されネーミングも「クッキングハウス」に変わり、以前よりも衛生管理が徹底し、さらに安全で、おいしい給食を提供することが可能となりました。また、クッキングハウスでは、子どもたちが過ごす園庭から調理場を覗くことができる窓が設置されており、調理中の様子を見ることができます。この窓から子どもたちは毎日楽しみに調理の様子を見にきてくれます。食育という観点から、地産地消として地元山梨の旬の食材を積極的に取り入れたり、園産園消と称して園の施設であるファームで、子どもたちが育て、収穫した無農薬の野菜を給食に取り入れたりもしています。子どもたちにとって、自分たちが育てた野菜を食べるということで、食に対する関心を高める機会にもなっています。

現在、クッキングハウスでは小学校と幼稚園を合わせて約800食の給食を作っています。私は、調理にも携わっていますが、アレルギー対応を主に担当しています。食物アレルギーを持つ子どもたちも、給食の時間をみんなと楽しく過ごし、十分な栄養を摂取できるよう工夫を行っています。幼児期、学童期は、様々な味や食材に出会い、食の幅を広げていく時期です。給食はそんな子どもたちの発育をつかさどる重要な要素を担っています。子どもたちの心身の健康を支えながら、管理栄養士である身近な先輩を目標に、日々精進していきたいと思っています。

「毎食が、勉強です！！」

陸上自衛隊北富士駐屯地 天野 江津子
管理栄養士の職に就き今年で早20年。転職3回・4カ所目の職場として、現在陸上自衛隊北富士駐屯地にて、防衛技官・栄養担当官として働いています。

365日3食の駐屯地給食・野外訓練時の献立作成から始まる集団給食管理と、集団・個別の栄養

教育が主な仕事内容です。調理は平成22年度からアウトソーシングになり、調理経験40年前後の調理師が主に行っています。

どんなに栄養士が食事摂取基準に沿った献立を作成しても、美味しく食べて頂かないと意味がありません。同じ食材と調味料を用いても、食材の取扱い方や調理の過程で味が全く違ってくることが多々あり、ベテランの調理師の腕に、日々勉強させて頂きながら、バランスのよい美味しい食事提供に努めています。

今年も、隊員が自分の状況に応じた食事摂取ができ、体力の向上を図り、生涯に渡り健康で過ごせる食習慣を身に付けられるよう、様々な働きかけを行いたいと思っています。

「地域活動部会員として」

地域活動部会 長田 文江
昨年度、全国地域活動栄養士協議会東ブロック研修会が山梨県で開催されました。

私も運営に携わり、打ち合わせ会や、開催準備等で甲府まで何日も通いとでも大変でした。

しかし、参加された他県の方々の仕事に対する熱意や意識の高さに驚き、良い刺激を受け、すばらしい経験をさせていただきました。

地域活動部会の活動は、乳幼児から高齢者まで幅広く関わります。

この経験を活かし、食の専門家として科学的な情報を収集し、根拠に基づいて、責任と自信を持って、地域活動部会の一員として活動していきたいと思っています。

「私がんばっています」

山梨厚生病院栄養管理室 末木 紀江
平成11年に山梨厚生病院に入社し、管理栄養士として今年12年目になります。病院での業務は、栄養指導や栄養管理計画書の作成を主に担当しています。

まず栄養指導では、患者様の食生活だけでなく、生活環境なども考えながら改善できることを一緒に探しアドバイスをしています。食事以外のことを聞かれた場合、適切なアドバイスができるように、定期的に研修などに参加し勉強しています。栄養指導をするにあたっては、知識だけでなく患者様との良好なコミュニケーションが必要なため、難しく感じるがあります。私はコミュニケーションをとるのが不得意なため、一方的な指導にならないように注意しています。様々な栄養指導の経験を積んで、分かりやすい指導、患者

様と少しでも信頼関係を築けるような指導が目標です。

栄養管理については、栄養管理計画書を作成しています。栄養状態が不良であると、病気の回復が遅れたり、感染症などの合併症をひきおこしやすいと言われるています。適切な栄養管理により、栄養状態が改善すると病気の回復も速まるということから、栄養管理が重要視されています。当院でもNST栄養サポートチームの稼働を目標に、NST研修や、臨床実習等を経験し勉強中です。私が実習させていただいた病院では、実際に患者様のベッドサイドに毎日出向き、栄養状態や食事摂取状況はもちろんのこと、輸液管理に至るまで、全て管理栄養士が主体となり、スクリーニングとアセスメントを行っていました。医師や看護師、薬剤師など他職種とも交流を深めカンファレンスを良好に行っている状況でした。ついていくのが精一杯で、もっと勉強が必要だと強く思いました。自身を見つめ直すいい機会となり、管理栄養士としての責任の重さを新たに学ぶことができました。今後の業務に生かしていけるようこれからも頑張りたいと思います。

「私、頑張ってます」

市立甲府病院 金井 敬子
新年、明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災に見舞われ、悲しく、心の痛む年となってしまいました。本年は、復興に向け、明るく歩んでいける1年になりますよう祈っております。

「ママ、この貯金箱ちょうだい。500円玉ある？」と息子が言い出しました。何に使うのか聞いてもなかなか答えません。しばらくの間、思い出したように「500円玉ちょうだい」と貯金箱にせっせとお金を入れていました。500円玉はいつでも持っているわけではないため、ある時「今日はお財布にないよ。」と伝え、何に使いたいのか再度尋ねました。

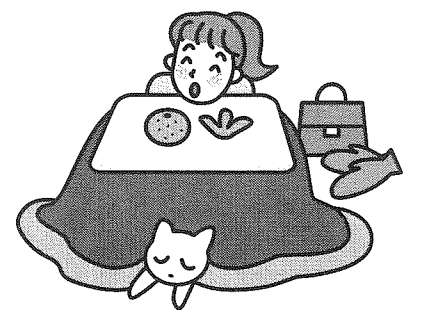
すると、「あのね、この貯金箱がいっぱいになったら家族4人で旅行に行くの。外国！」とニコニコしながら教えてくれました。息子達は家族旅行のために貯金をしていたのです。夢は大きく、外国だそうです。500円玉貯金は家計を預かる身としてはかなりの痛手です。何年かかるかわかりませんが、いつか叶えたい私の夢にもなりました。

休日仕事で家を開けることも多く、研修などにも参加したいと、欲張りな私に過ぎた時間の尊さを改めて気づかせてくれました。

今日の日常がずっと続くとは限りません。惜しみなく家事を手伝ってくれる夫と、幸せをくれる息子達に感謝し、仕事でも家庭でも『1日1日を、時間を大切に過ごしていく。』私が忘れがちで、そうありたいと願っていることです。

「今年の抱負」

特別養護老人ホーム 慶和荘 渡辺 愛可
特別養護老人ホームで管理栄養士をしています。渡辺愛可です。明るく楽しいこの施設で、良い先輩にも恵まれ、毎日楽しく仕事をさせていただいています。しかし、社会人1年目のわたしは、やはり実践的な応用力にどうしても欠け、管理栄養士としてまだまだであると痛感することばかりです。給食の現場や施設の入居者様の状態など、日々変化のある特養という現場で、その一つ一つの変化にどう対応していいか分からず、考える毎日です。わたしには、ラッキーなことに管理栄養士の先輩がいて、わたしの小さな疑問にも丁寧に答えていただき、特養という現場で働く管理栄養士としての考え方を教えていただいています。そのような中、やはり実感するのは、わたしの知識・経験不足です。知識・経験のある先輩は、わたしの考えつかないようなことを考え、臨機応変に日々の変化に対応しています。わたしの目指す将来的な管理栄養士像は、知識が豊富であり、どんな問題にも最善の提案ができ、誰からも頼りになる存在であることです。その目標像に少しでも近づけるように、今年は沢山の知識を増やすことに努めていきたいと思っています。研修会にも出来るだけ参加していき、また栄養士雑誌などからも積極的に知識を得ていきたいです。そして日々の仕事の中で起こる問題からも決して目を背けず、向き合い、そして沢山考え、経験を少しずつ付けていきたいと思っています。そして何より、わたしの大好きなこの施設の管理栄養士として、入居様に少しでも多くの幸せを与えていけるよう、毎日頑張っていきたいと思っています。



「今年の抱負」

青い鳥老人ホーム 大橋 由佳
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今の職場に入社したのが3年前でした。”栄養士”という仕事に憧れと期待、不安でいっぱいだったのを覚えています。入社当初、緊張や戸惑う事ばかりで失敗も多く、先輩から叱られ、憧れていた栄養士の仕事とはかけ離れ、毎日が憂鬱でした。でも、今はそれがバネとなり知恵となり自信へと繋がっているような気がしています。利用者様から「今日の御飯、美味しかったよ。」「また作ってね。」との声を頂く事の嬉しさ、「〇〇さん、これが好きでしたよね?」と言う問いかけに対して嬉しそうな笑顔を見せてくれ、そんな笑顔を見ると不思議と元気が出てくると同時に頑張ろうという気持ちになります。そんな利用者様のためにも、これからもより良い食事の提供が出来るように努めていきたいと思っています。

また、2年程前から栄養士会福祉(高齢)部会の役員としても様々な経験をさせていただきました。生涯学習研修会におけるシンポジストや、いきいき山梨ねりんピックの参加、その他にも様々な形で研修会等のお手伝いをさせていただきました。何もわからない私に詳しく、丁寧に教えて下さった役員の皆様には感謝でいっぱいです。役員になり、分からない事だらけでしたが、とても良い経験をさせていただきました。

栄養士として、まだまだ半人前ですがこれからも様々な事を経験し日々精進したいと思っています。

「保育所給食を通して」

鳴沢保育所 三浦 ちせ

私は行政との兼務で保育所給食の栄養士をしています。役場勤務のため実際調理現場には入っていませんが、所長を含めた月1回の給食運営会議の中で、献立内容・組み合わせ・量・保育士からの意見・衛生管理・改善すること等を話し合い、給食業務をすすめています。その他南都留郡給食部会での連携もとれているので、情報交換をしながら会の活動に取り組んでいます。他の園から教わることも多く、たくさんの皆さんのおかげで給食が成り立っています。

鳴沢保育所園児 97 名(11 月 1 日現在)の給食を 2 名の調理師で調理していますが、3 歳未満児の増加や 0 歳児の離乳食、アレルギー児の除去食、加熱時間や中心温度等の記録など対応するのに、日々時間に追われる毎日です。子ども達は未満児以外食堂で喫食するので、食べている様子を見に行くと「ぜ

んぶたべちゃったよ!」「ほいくえんのきゅうしょく、おいしい!」「やさいをたべたから、おかおがつるつるになった」ときれいな皿をみせてくれると調理師共々とても嬉しく感じます。中にはおやつを蒸しパンに手をつけずどうしてか聞くと「虫がはいっているからたべたくない」と言われ大爆笑してしまったのですが、子どもには説明をしネーミングに気を付けたりもするようになりました。

毎日園児の姿は見られませんが、乳幼児健診の栄養指導から保育所給食を通しての食育教室などにおいても、それぞれの子ども様子がわかるという繋がりもあるので、いろいろな職種や機関と連携をとりながら日々の業務を行っていききたいと思います。

「私、頑張っています」

立正光生園 斉藤 由香

年女?私が?そんなに時が過ぎたことがうそのようです。児童養護施設がどんなところかも知らずに勤め始め、「何を食べるかばかりではなく、どう食べるかが大切」と諭されて 25 年。どちらかという何を食べるかを学習してきた学生時代。どう食べる?ということだろうか?とんでもない世界にきてしまった。そんなことを思ったことを今、思い出しています。

乳児院や児童養護施設に入所してくる子どもたちは大切にされるはずの人に大切にされなかった子どもたちがほとんどです。そんな子どもたちは食事の場で色々な表現をしてくれます。一緒に食べる人に暴言を吐いたり、食品をぞんざいに扱ったり……。とても一緒に食卓につきたいと思えない……。でも何故そんなことをするのか?という視点をもったとき、そうせざるを得ない子どもたちの姿がありました。子どもたちはこの表現しか知らずに育ってきたのです。「自分が何のために生まれたのかわからない」「どうせ自分なんか」子どもたちの声が聞こえます。そんな子どもたちに「あなたは大切な人」「かけがえない人」であることを伝える場としての食卓。その実現のためにその食卓のコーディネートする人の一人としての仕事が栄養士に課せられていたのです。毎日毎日の営まれる暮らしの中での食卓。今日は食卓でどんな事件が起きるでしょうか?それにどう向かいあうのでしょうか?

社会の変化も心配です。子どもたちが危ない。難しい課題だらけです。せめて子どもの声が聞ける大人でありたいと思うのですが……。栄養士として、一人の人間としてできることはほんのわずか。できるわずかのことを精一杯。今年も子どもたちと一緒に、気負わずささやかに暮らしていこうそう思います。

県政功績者表彰受賞おめでとうございます

平成 23 年度 県政功績者表彰を受賞して

名誉会長 石坂 恵子

この度は、栄えある「県政功績者表彰」を受賞させていただき、心より光栄に思っております。受賞のご連絡をいただいた時は、戸惑いと共に、ご指導、ご支援下さいました多くの方々のお力によるものと感謝の気持ちで一杯になりました。

戦争遺児である私は、幼い頃より、働く母親の姿を見て育ちましたが、これからの女性は何らかの資格を取り、それを活かして職に就く事が大切ではと考えていました。栄養士という資格で、山梨県職員となり、平成 12 年 3 月、定年退職を迎えました。その間、医療・学校・保健所と経験しました。様々な職場において、栄養士という仕事の幅の広さを感じる毎日でした。栄養学・調理学などの知識はもちろん、人を相手にすることが多いので、コミュニケーション能力やカウンセリングの能力なども要求され、それぞれの立場で求められる能力の割合は違いますが、私は異動するたびに、一から勉強し直しているような感じもありました。今までのことを振り返ると、その時なりにやってきたことは、決して無駄ではなく、何らかの形で自分に返ってきていると思います。

定年退職後、平成 12 年 5 月より、山梨県栄養士会会長に就任しました。会員あつての会であることを心がけながら、本会の活動は県民と行政及び関係団体が連携して取り組む目標を掲げ「健康づくりと食育」は基軸を持ちながら進んでいくものと考え、栄養士会事業に精力的に取り組んでまいりました。山梨県版食事バランスガイドを作成し、その普及に努めたり、伝承料理を取り入れた食育の推進も図ってまいりました。どんな事業をするにも協力者があって初めて出来るものであり、元事務局長の遊佐清様を初め、役員の皆様の協力なしには出来ない事でしたから、今回の受賞は私一人のものではなく、栄養士会が表彰されたものと思います。

「生活習慣病対策の推進」予防を重点的な目標とした、メタボリックシンドロームの概念を導入した特定健診・特定保健指導、疾病の重症化予防など管理栄養・栄養士の役割は計り知れません。ますます管理栄養士・栄養士の活躍が期待されております。

山梨県栄養士会の益々のご発展と皆様方のご活躍を祈念しております。

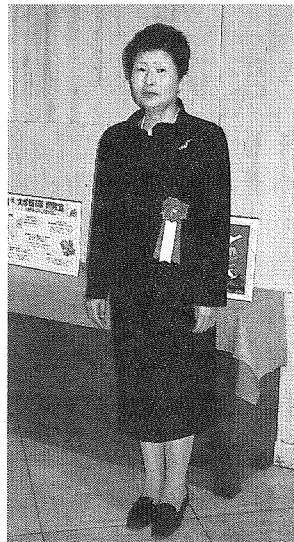
厚生労働大臣表彰受賞おめでとうございます

食を通じ地域のつながりを大切にしたい

山梨学院短期大学 依田 萬代

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」この歌は鎌倉時代、方丈紀の鴨長明の文学作品であり、何度話してきたかわかりません。

月日が経つのも早いもの産業給食の栄養士 3 年 6 カ月その後、栄養士教育養成勤務 35 年と走馬灯のごとく過ぎ去っていきました。



この度は、栄誉ある栄養士養成功労者として、「厚生労働大臣表彰」を頂戴できたのも、山梨県栄養士会をはじめ皆様のご支援、ご指導の賜物と感謝の念に耐えません。

日本は3月11日2時46分、東日本大震災が起き、千年に一度と謂われる未曾有の地震は自然の脅威をまざまと見せつけました。忘れませんあの時、短期大学の2階で同僚と手を取りあいテレビでは千葉のコンビナートの火災が視覚に焼きつき、同時点でJR身延線が止まりました。同僚が一早く「鰯沢いや家まで送る」と話し、車で出発し信号機はついてない、あたりも暗くなり携帯が鳴り夫からの連絡で帰れることが出来ました。その後も計画停電と身延線が11日間運休、毎日の報道は震災と原発の話題でした。日本が悲しみにくれた時、世界中の人々からやさしく手を差しのべて頂きました。支え合い思いやりの気持ちを待って協力・連携することが大切だと痛感しました。時代は速やかに変化し発展する一方、山梨の郷土食も薄れ、何とかしなくてはなりません。

これらは山梨の誇る歴史的な文化遺産であり食に関わる方々なくして伝承する事が出来ません。

現在、山梨短期大学では産官学連携のプロジェクトの中で「地産地消・地域連携」をテーマに「山梨の特産品の美味しい料理提案」を推進し「甲州頬落鶏・甲斐サーモン・身延竹炭粉・甲州もちろし粉・明野金時芋・李など」のレシピ集編集や食育に取り組んでいます。それらの成果は、地域活性化と地域貢献に果すものと思っています。

山梨県栄養士会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

栄養改善功労者山梨県知事表彰おめでとうございます

知事表彰をいただいて

韮崎市役所子育て支援課 横森 千代子

このたびの知事賞心よりお礼申し上げます。

私が、このような賞をいただいてよいのかと思っていたのですが、お受けくださいとの中北保健所峡北支所の千頭和さんに背中を押されお受けいたしました。

栄養士の仕事をさせていただくようになって一筋に35年あっという間の年月でした。病院、老人ホーム、学校、保育園、行政といろいろな職場を経験させていただきましたことは、時には辛く、楽しいことばかりではありませんでしたが、どここの職場においても相手の方に喜んでもらえる食事提供は35年間かわらぬ私の柱でした。衛生管理にも気をつけての食事提供は食中毒の心配もあり、そのほかのウイルスなどにも気を使いますが、「おいしかった」の声に救われる思いです。

食事は、楽しく、美味しくということが一番のように思います。楽しく食べてこそ体と心の栄養にもなるのではないのでしょうか。

また、辛いとき、苦しいとき支えてくれた家族、栄養士の仲間、そして親友。わたしの周りの係わった全ての方々のおかげです。そして、どここの職場においても協力してくれた調理師、調理担当者の方々でした。

苦しい時を乗り越えられたこそ、今の私がいます。これからも、与えられた職場で精一杯明るく元気に頑張っていきたいと思います。小さい頃から栄養士になりたくて、運よく栄養士の仕事ができることにも感謝です。

神様は、私や私の家族にいろいろな試練を与えてくれますが、このようなご褒美も時には与えてくれ

るのだなと感謝しています。また、いろいろな試練により、仕事にも生活においても強くなれたような気がしております。

この賞を頂くに当たり、(社)山梨県栄養士会、山梨県健康増進課、中北保健所峡北支所の千頭和様、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

知事表彰をいただいて

病院部会 桂原 由美子

この度「健やか山梨21推進大会」において、栄養改善功労者として知事表彰をいただきました。推薦して下さった山梨県栄養士会、行政の皆様、諸先輩、素晴らしい仲間と出会い、栄養士として仕事を続けることができたこと心より感謝致します。東京で初めて栄養士として働いた頃は栄養計算はそろばん早見表を使い、調理はすべて手作りだったので、調理師さんにオムレツマヨネーズの作り方は良く習いました。

東京での仕事は栄養課長さんより糖尿病の指導方法、事務、調乳など栄養士としての基礎をすべて教えていただいたと思います。

昭和55年、山梨に帰って来て宮川病院で勤務致しました。まだ給食の委託はあまりしていない頃、直営から委託に変わり委託について勉強させていただきました。

平成7年に学校給食の代替栄養士として上九一色村立小学校に勤務致しました。学校の近くにオウム真理教のサティアンがあり、給食を配送するのに警察の検問を受けて小学校に行ったり、O157で生野菜・果物を入れない献立を作成し、とても苦労した思いがあります。

学校給食は短い間でしたが、小林町子先生に直接指導を受けたことは大切な思い出です。

受賞に際しましてご尽力下さいました、多くの関係の皆様方に御礼申し上げます。



知事表彰をいただいて

山梨学院短期大学 根津 美智子

この度は、栄養改善功労者として、栄誉ある知事表彰を賜り真に有難うございました。

これも山梨県栄養士会をはじめ皆様のご支援、ご指導の賜物と心から感謝しております。

早いもので、栄養士養成施設校にお世話になって37年が過ぎようとしています。勤務した頃は、現在のような中食、外食産業の伸長もなく、栄養バランスがよい日本型食生活という言葉が使われるようになった頃でした。その後、昭和から平成に時代が変わる頃、女性の社会進出、単身世帯の増加、高齢



化の進行などにより便利な惣菜や中食食品の利用が増加してきました。そのような状況の中で郷土料理の伝承問題、家庭料理の衰退、子どもの孤食化など食生活において様々な問題を呈するようになってきました。

その問題に国を挙げて幼児から高齢者までの食生活を見直そうと、平成 17 年に世界に先駆けて食育基本法が制定されたことは、非常に意義深いことであると思います。

平成 21 年 11 月に山梨県と山梨学院短期大学、山梨学院大学は「健康・栄養・食育」に関する連携協定の締結を行いました。連携内容は健康及び栄養教育、及び食育の推進に関する事です。それらの要請を受けて、今まで食材として「しいたけ・あけの金時芋・レインボーレッド（キウイフルーツ）・雑穀・甲州頬落鶏・甲斐サーモン・李・竹炭・生ぶなはりたけ・米粉・わさび等」を利用した料理コンクール並びにレシピ集の作成また、旅館・ホテル等へのヘルシーメニューの開発提案などを進めています。これらの活動が栄養士施設校として学生並びに県民の健康増進や地域の経済活動の活性化に貢献できたと思います。

山梨県栄養士会の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。

日本栄養士会表彰受賞おめでとうございます

日本栄養士会表彰を受賞して ～ 26 年間を振り返って～



すずきネフロクリニック 標 雅子

この度、日本栄養士会表彰をいただき、心からお礼申し上げます。

想えば私が栄養士という職業を初めて知ったのは小学生の時でした。ある日給食にいつもと違うオシャレな洋風料理が提供されました。そして白衣を身にまとった女性がさっそうと現れて説明して下さいました。この方こそ栄養士であり確か「秋山先生」だったとおぼろげに記憶しています。（昭和 50 年頃、韮崎市立竜岡小学校にいらっしゃいましたが、ご存知の方は教えてください）オシャレな料理と白衣姿に心を奪われてから、数年後の昭和 60 年 4 月、私も憧れの栄養士としての人生をスタートさせた訳です。

ある研修会で「これからは管理栄養士の時代が来る」と、当時甲府保健所に勤務されていた田草川憲男会長の言葉が胸に響きました。仕事と両立させながらの学習でしたが、無事試験に合格できました。

さて、私の職場すずきネフロクリニックでは人工透析療法を行っています。透析患者数は年々増加し、2010 年の統計によると全国で約 29 万人、山梨県では 2,193 人、当院においても現在 150 人が治療を受けています。治療の中心は食事療法であり、医師、看護師、臨床工学技士とのチームで行うため、勉強会・研修会への出席、学会発表など日頃からのスキルアップには気が抜けません。基本となる透析食の提供も行っており、4 人の調理員が日々奮闘しています。恩師である山梨学院短期大学・依田萬代教授ゼミとの透析食調理実習会も毎年恒例になってきたところです。

一昨年は初めての入院と療養生活を経験しました。休職中の後輩の活躍とたくましさには本当に頭が下がる思いです。

憧れの職業になり 26 年、振り返るといつも周りの方々に支えられて来ました。これからは誰かを支えられるような人生を歩んで行きたいと思います。ありがとうございました。

職域部会のコーナー

学校健康教育部会

地産地消を推進するために

学校健康教育部会長 谷村第一小学校 高尾 順子
「地産地消」という言葉をいろいろな所で耳にしますが、学校給食の中でもここ数年、その取り組みが盛んになっています。

学校での地産地消の意義を考えると、地域の産物を地域で消費する、農業や産業の活性化だけでなく、児童・生徒が自分たちの住む地域の気候風土の中で生産される産物（生産、流通、消費）について理解を深め、感謝の心や郷土を大切にすることの育成にもつながるなど大きな教育的意義があると考えられます。

このような中で、学校健康教育部員各自は、地産地消が推進できるよう、勤務する地域を知ることから始まり、学校給食に地域の産物を取り入れるために生産者等との連携のあり方を探るなど様々な努力を続けています。また、地域の産物を食材として使用するだけでなく、子どもたちに地

産地消の大切さや地域の産物となってきた背景を伝えることにより、学校給食の献立が「生きた教材」となるような取り組みもしています。

学校健康教育部会では、今年度第 1 回目の学習会の講師に県水産技術センター忍野支所の大浜支所長様をお迎えし、山梨県の淡水魚生産と食材としての今後の展望についてご指導いただきました。富士山の湧水、山間部の伏流水の豊富できれいな天然水に恵まれている山梨県だからこその淡水魚養殖であるというお話や、水産技術センターの業務や施設を見学、また淡水魚を使った料理を試食させていただいたことにより、より地元の食材として深く知ることができ、これからの学校給食の献立や食育の実践に活かしていける有意義な学習会となりました。

これからも各自の研鑽を重ね、部員同士の実践の交流を深めながら、地域性を活かした学校給食、地域を知るための食育の展開ができるよう努力していきたいと思っています。

行政部会

研修報告

行政部会長 中北保健所峡北支所 千頭和 功
行政栄養士の研修会は年度末に実施されたため、紹介される機会がなかったのでこの機会に内容を紹介させていただきます。

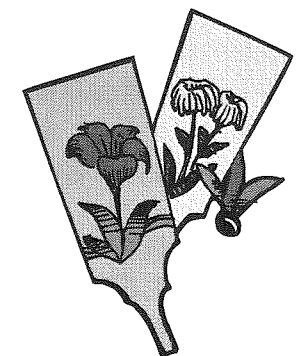
演題は「自然災害時における栄養士の役割」とし、新潟県中越大地震、中越沖地震を経験し、被災者や給食施設の復興支援にたずさわった新潟県十日町保健所の管理栄養士、磯部澄枝氏を招き、講演をいただきました。

新潟県でみまわれた 2 つの災害の経験から、保健所と各市町村における対策と給食施設との連携などについて、現実的で実践力のある内容で、説得力があり、被災にみまわれ苦闘をかさねてきた県や担当者や現場の方の記録など、マニュアルや災害の想定だけではできない部分も確認できました。

また研修から 1 週間もたたない 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、それ以来社会全体の危機管

理の意識もたかまっています。

行政では昨年度から部会や職域の業務のなかで行政栄養士がどのような対策や危機管理をおこなっていくべきか検討するなど行ってきました。さらに大震災を経て保健所や市町村間での危機管理の取組みや連携の強化、給食施設における危機管理対策の実態調査など実施しており、これらを足がかりに着実に山梨県での対策の強化を進めようと考えています。



研究教育部会

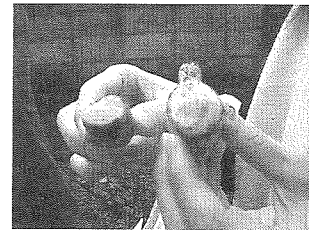
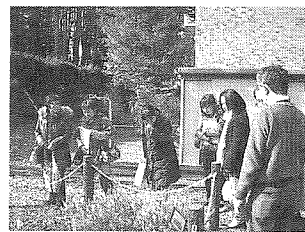
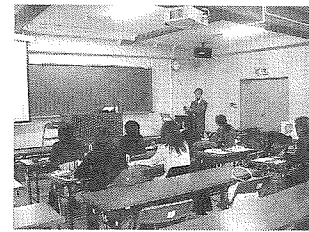
薬用植物園を訪ねて

研究教育部会長 山梨学院短期大学 深澤 早苗
本年度の主な活動として研究教育部会研修会を平成23年11月18日に開催しました。当日の参加人数は8名で研修場所は昭和大学富士吉田校舎にて、薬学部平井康昭先生に医薬品と食物について講義をしていただきました。生涯学習研修会でも取り上げられたテーマですが、研究教育部会員は公務が重なり、受講できなかったため薬用植物園の見学も含めて企画しました。

講義では七味唐辛子と薬用植物のホットな関係のお話をうかがい、生薬や漢方薬の特徴を科学的にとらえることができました。薬用植物園には日本薬局方収載生薬の基原植物をはじめ、多くの植物が植採してあり、学名や薬用部位、薬効などが展示ラベルに書かれていました。サンシュユの赤い実やキハダの樹皮などを摘んでその苦味成分を皆で口にし、春ウコン、秋ウコンも採取し、香りや薬効の違いも学びました。生薬や薬用植物に直接触れることができ、これらに対する知識を深めることができました。

午後からは(株)キューピー富士吉田工場にて、

お粥、業務用マヨネーズの製造工程を見学しました。オートメーション化された工場内では従業員の少なさに驚きました。お粥については高齢化社会の中、需要が高まり、毎年出荷量が伸びていることを知りました。また、容器包装に関してもくびれの入ったジャム瓶の開発、ドレッシングの点字表示、安全性を考慮したボトルキャップの導入などユニバーサルデザインを意識した企業姿勢を確認する場となりました。秋の日差しの中で、有意義な一日を過ごすことができました。



集団健康管理部会

災害時における栄養士の役割をテーマにシンポジウムを開催しました

集団健康管理部会長 ホテル デュシェルブルー 大木 由枝

今年の研修会はシンポジウムを開催しました。テーマは「災害時における栄養士の役割」です。抽象的な理想論ではなく、体験を発言し、その状況を共有し議論した有意義な研修会でした。

3月11日の東日本大震災およびその数日後には静岡県を震源とする地震が発生、続く東京電力の計画停電などでは、部会員の職務にも影響を与える状況が発生しました。東日本大震災は対岸の火事ではなく、自らの職務に何か関係する災害だったのです。集団健康管理部会は部会員の職場が多彩です。この特徴が功を奏し、異なった職域での災害時の対応を、体験した部会員の発言から学び合う事ができました。

深澤幸子先生の基調講演では、現地の悲惨な様子と救援に参加した先生ご自身の過酷な立場に驚いて、その場にあるもので迅速に考え献立を立てる応用力に感動して、付け合わせまで揃えた提供

料理に感激しました。
シンポジウムの詳細は下記の通りです。

日 時	平成23年10月12日(水) 14時～16時
テ ー マ	災害時における栄養士の役割
基調講演	山梨赤十字病院 栄養課長 深澤幸子先生
演 題	「日栄会員として被災地支援に関わって」
シンポジスト	大柴由紀(財団法人 キープ協会) 東日本大震災被災者支援 「元気なベプロプロジェクト」事例報告 天野ひでみ・宮下友里(昭和大学) 医療救援隊派遣への後方支援 望月美佐(社会保険 鰺沢病院) 当院における災害対策 伊藤貴子(NECライベックス) 事業所給食施設における災害時の対応
コメンテーター	

河南洋子・遠藤ひろみ
座長・司会 大木由枝

この他、平成23年度活動は、部会総会・研修

地域活動部会

部会報告

地域活動部会長 立川 聖子

地域活動部会は、昨年7月に日栄全国地域活動協議会東ブロック研修会の当番県となり会員一同で、一年間をかけて準備して実施、「おもてなしの心」と甲州人の人情味溢れる会で多数の参加者にも好評で大成功に終了し東西ブロック研修会の最後の責任を果たすことが出来ました。

今年度は、7月から始まった、出前栄養相談(児童館での食育事業26箇所)・年間を通しての甲府市「街なか健やかサロン」笛吹市NP〇法人「きっずやつしろ」での栄養相談など、在宅で地域社会に関わる管理栄養士・栄養士がその特性、持ち味で赤ちゃんから高齢者までの栄養相談・栄養指導を行っています。

嬉しい事に、日栄のHP「全国からこんにちは」

会「症例から学ぶ生化学 がんによる悪液質：急激な体重減少」(4月27日：ぴあ総合)、懇親会「情報交換」(4月27日：ホテルクラウンパレス甲府)を開催しました。

に部会の大先輩である中北支部、古屋百合子会員の記事が載りました。また、日本栄養士会雑誌に再掲されますので是非ご覧ください。

また、全国地栄協の事業として「特定保健事業従事」についての全国的なアンケート調査が行われその結果が待たれるところです。

公益法人になって今後どのような活動をすればよいか全国地栄協の動きを見ながら、県事務局のご指導を頂き来年度からの活動方針を考えなくてはなりません。

それには会員の増員を含めた組織強化、常の自己研鑽、会員相互の情報交換・親睦などが大切なことだと考えます。

会員研修を計画しましたが、あの台風15号のために中止となり残念でしたが新年になってからまた計画いたします。

病 院 部 会

病院部会長 山梨赤十字病院 深澤 幸子
平成23年度病院部会の課題は、未曾有の災害「東日本大震災」が起こった事により「災害時における病院栄養士の心得」を重点的に学ぶことでした。

総会時には山梨県栄養士会の研修会と合同企画で、ご自身の職場である福島労災病院も被災した田村 佳奈美先生に「災害時の危機管理～東日本大震災の現場では何が起こっていたのか? 栄養士として準備しておくべき事」と題してご講演を賜りました。

内容は、田村先生の実体験から発災当初の事から、震災後1ヵ月後に起きた地震が避難生活を送る被災者に大きな精神的ダメージを与えた事などを話されました。「もう限界!!」と人々が漏らすようになった事などをお聞きし、本当に大変な災害に見舞われてしまった事を再び実感しました。

また、長引く避難生活で栄養が偏った食生活を強いられ慢性疾患の方に問題が生じたり、衛生管理も不十分で食中毒予防の掲示をする指導をしたそうです。

その様なお話の中で、まだまだ必要な支援の継

続の呼びかけがありました。

8か月たった今も、完全復興は程遠い報道に私の心は痛みます。

第2回研修会は「免疫と免疫栄養について」がん治療などに必要な免疫力に焦点を当てた勉強でした。オペ前・オペ後の栄養管理の重大さと栄養士として認識し、その為に何を今後なすべきかを考える機会になりました。

第3回研修会は、福祉部会と合同で遠く沖縄の北中城若松病院の「内科医・インフェクションコントロールドクター・NST顧問」また「泡盛マイスター」という珍しい肩書を持つ吉田 貞夫先生を会員からの強い要望でお迎えし「現場で使える臨床栄養～静脈栄養、PEGから経口摂取へ」という、とても楽しく役に立つ研修会を開催する事が出来、明日からの栄養管理業務にすぐ役立つ勉強が出来ました。

これからも、会員の皆様の要望に答えていきたいと思っておりますので、ご意見をお聞かせ下さい お願い致します。

活動報告

介護老人福祉施設コスモ 高齢・障害担当
守屋 喜久代

今年度は震災の影響や計画停電の中、スタートしました。誰もがはじめての経験でしたが、“安全な食事の提供”に奮闘しました。目まぐるしく変化する中で福祉栄養士への期待も感じます。個々のレベルアップはもちろんですが、何処の施設でも同じサービスが提供出来、はじめて栄養士の評価が上がるように思います。今年度はこの様な思いのもと活動を行っています。

・5月10日
総会及び研修会「望まれる栄養士の姿」
講師：山梨県栄養士会長
田草川憲男氏
「期待される栄養士になるために」
特別養護老人ホームあかさか
渡邊富雄氏
先輩栄養士より、歴史や幅広い知識やスキルの習得など真髓を学びました。

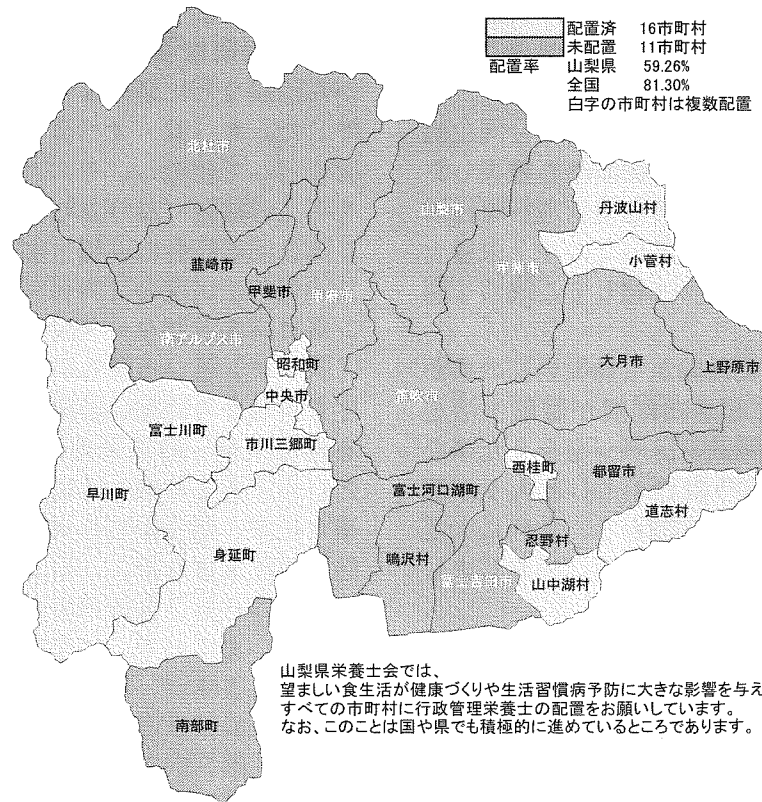
・9月10日
講演「栄養ケア・マネジメントの実践」
介護食の調理実習
講師：ワタミの介護株式会社
麻植有紀子管理栄養士
栄養ケア・マネジメントや介護食の必要性を再認識しました。

・10月22日
「現場で使える臨床栄養～静脈栄養、PEGから経口摂取へ」
講師：北中城若松病院 吉田貞夫医師
病院部会との共催で実現でき、最新情報も研修しました。

・2月22日予定
講演と調理実習
講師：潤和リハビリテーション診療研究所
黒田留美子氏
全国福祉協議会の研修も行われ、多くの会員が参加されスキルアップを行っています。また、調査研究に県内からも多くの施設が協力をしています。

山梨県市町村行政管理栄養士配置状況マップ(平成23年4月1日現在)

市町村の皆さまの健康状態を把握し、健康増進計画や食育推進計画の策定やそれに基づく乳幼児から高齢者の健康づくり・栄養改善事業を担当しています。すべての市町村に、行政管理栄養士の配置をお願いしているところです。



理事別職務分担表（平成22年度～）

部 名	部 長	担 当 理 事	担 当 業 務
総 務	平井美樹夫	大木由枝、中村益子	栄養・食生活情報検討委員会、栄養ケアステーション、公益法人
事 業	深沢幸子	田中優美子、町田真実、守屋喜久代	委託事業、ねんりんピック、県民の日、歯科保健相談・つどい、賛助会員関係
学 術	深沢早苗	有泉正子、宮川善美	生涯学習研修会、栄養士研究発表会
組 織	立川聖子	横森千代子、柿島穂津美	会員増対策、会費自動振り込み促進、退会者防止対策、市町村栄養士配置対策
広 報	千頭和功	高尾順子、小澤與志美	ホームページ、栄養やまなし編集、報道機関対応

各委員会委員名簿（平成22年度～）

	生涯学習委員会	栄養・食生活情報検討委員会	ホームページ運営委員会	栄養やまなし編集委員会	栄養ケアステーション推進委員会	公益法人検討委員会	栄養日本モニター
委 員 長	深沢早苗	平井美樹夫	田草川憲男	堀口一美	遊佐 渚	田草川憲男	
常任理事	石坂恵子	石坂恵子	石坂恵子	石坂恵子	石坂恵子	石坂恵子	
学 校	川崎ひとみ	秋山知子	大神田志保	窪寺ゆかり			山下ますみ
行 政	中村ゆかり	宮川善美	千頭和功	沓川洋子	中村益子	千頭和功	
研 究	深沢早苗	樋口千鶴		塚原順子			
集 団	宮下友里	大柴由紀		天野江津子			
地 域	横森恵理	五味美香	佐野桂子	小澤與志美	沢登京子	遊佐 渚	
病 院	佐藤秀子	深沢幸子	平井美樹夫	吉原京子	深沢幸子	平井美樹夫	
福 祉	土橋さく江	村上智恵子	小澤 恵	石井静恵	堀口一美	堀口一美	田村礼江

関係機関・団体等委員

- ・山梨県社会福祉審議会委員
- ・健やか山梨21推進会議委員
- ・山梨県地域・職域保健連携推進協議会委員
- ・山梨県食品安全会議委員
- ・山梨県食育推進協議会構成団体（副会長）及び幹事会
- ・甲府市地域包括支援センター運営協議会委員（会長）
- ・社団法人日本栄養士会 新会員管理システムプロジェクト委員会委員

謹んで新年のお慶びを申し上げます

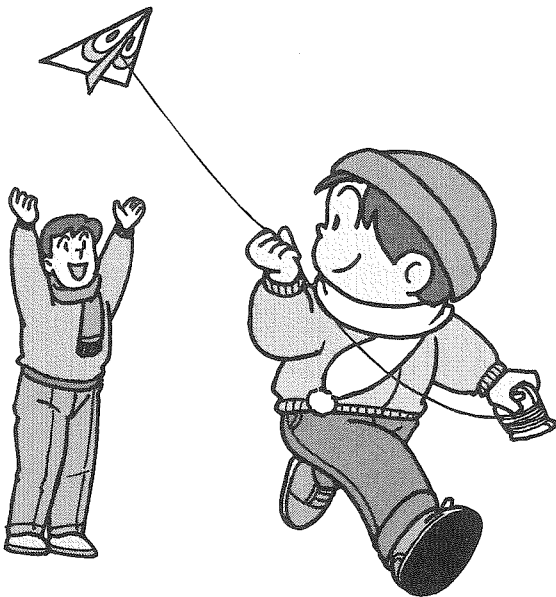
平成 24 年 元旦

(社)山梨県栄養士会賛助会員

(順不同) 平成 24 年 1 月 1 日現在

社 名	電 話	担 当	業 務 内 容
エ コ ア 株 式 会 社	055-241-1755	相 川 秀 樹	防鼠害虫駆除
和 泉 産 業 株 式 会 社	055-222-1153	高 石 俊 二	食器、厨房機器
㊤ 上 田 屋	055-266-2331	上 田 昭 雄	ソフクリーン、もずく
大 塚 製 薬 甲 府 出 張 所	055-276-8581	村 上 裕 之	ポカリスエット、ネイチャーメイト
オ ギ ノ 食 糧 (株)	055-222-5181	深 沢 千恵子	給食材料
(有) オ ズ プ リ ン テ ィ ン グ	055-235-6010	丸 山 健	印刷、出版、紙工
(株) 三 和 化 学 研 究 所 甲 信 支 店	0263-36-1771	中 山 清 高	医療用食品の研究開発・販売
甲 信 食 糧 (株)	055-273-4561	入 倉 斉 二	食品材料卸
シ キ シ マ 醬 油 (株)	055-273-6844	小 林 秀 男	醤油、減塩調味料、ジャネフ製品
信 濃 化 学 工 業 (株)	0262-43-1115	上 野 清 登	食器、トレイ
(株) テ ン ヨ 武 田	055-266-5251	広 瀬 潔	醤油、給食材料
(株) 日 新 厨 房 企 画	055-273-3881	杉 本 哲 史	厨房企画設計管理
(株) は く ば く	0556-22-8989	長 沢 琢 美	麦の総合食品メーカー、「骨太家族」
宮 坂 醸 造 (株)	055-241-8181	中 澤 等	味噌
湊 興 (株)	055-226-3742	小 野 謙 一	鮮魚、煮貝
(株) マ ル ハ チ 村 松	054-622-7371	森 田 新 治	鰹の素、だしの素
山 梨 ヤ ク ル ト 販 売 (株)	055-237-8960	保 坂 憲 夫	健康科学ヤクルト
北 沢 産 業 株 式 会 社 甲 府 支 店	055-226-2800	手 塚 清	厨房設計管理
三 信 化 工 株 式 会 社	03-3539-3414	野 田 伸 太 郎	メラミン、ポリプロ食器
三 島 食 品 (株) 東 京 支 店	03-3317-1212	吉 岡 雄 史	ふりかけ、レトルト食品
(株) H + B ラ イ フ サ イ エ ン ス 東 京 支 店	03-5285-0562	橋 本 洋 治	特殊栄養食品、低エネルギー食品「マービー」
テ ル モ 株 式 会 社	0263-48-0701	伊 藤 辰 男	医療用食品の製造、販売
東 洋 羽 毛 首 都 圏 販 売 株 式 会 社 西 東 京 営 業 所	042-675-8811	晝 間 和 彦	羽毛布団
東 京 サ ラ ヤ (株) 八 王 子 営 業 所	042-660-0521	嶺 岸 隆 仁	食品衛生材料、栄養食品の製造・販売
日 清 医 療 食 品 (株) 中 部 支 店	026-269-6700	崔 田 学	給食委託業務、給食材料、濃厚流動食シリーズ
(株) ジャ パ ン メ デ ィ カ ル	055-222-1121	篠 原 幸 生	臨床検査委託、医療、資材販売
(株) 岩 崎	0263-39-0501	石 和 利 康	食生活、栄養指導用フードモデル製造、販売
味 の 素 製 薬 株 式 会 社	055-221-8581	小 林 正 人	輸液、医療用食品の研究開発、販売
(株) ク リ ニ コ	042-590-1506	鳥 谷 尾 直 子	病態栄養食品の普及、販売促進
東 洋 シ ス テ ム サ イ エ ン ス	045-451-3191	鈴 木 洋	給食・栄養管理及び指導ソフト「カロリーメイク」の開発販売
(株) オ オ キ	055-273-6644	芦 澤 秀 雄	食品、環境の衛生管理、ソフト、ハードの全般
(株) ユ ウ シ ス テ ム	055-223-3085	山 口 竹 夫	福祉関係ソフトウェア開発、コンピューター機器販売
明 治 乳 業 株 式 会 社	055-273-7071	志 村 有 希 子	栄養食品、乳製品製造、販売
ネスレ日本(株)ネスレニユー トリションカンパニー	090-5437-5370	高 橋 功	栄養食品（アイソカルシリーズ）販売
株 式 会 社 フ タ バ	0256-45-7272	今 井 和 郎	けずり節、だし粉末、その他食材製造・販売
花王カスタマーマーケティング(株)東京リージョン	03-6703-7556	黒 田 浩 子	花王製品の販売
カルピス株式会社東京支店	03-5722-5211	佐 藤 康 彦	飲料品の販売
長谷川化学工業株式会社	047-482-1001	本 田 光 夫	まな板・ほうちょうなどの製造販売
大 陽 食 品 株 式 会 社	055-224-5415	新 津 明	業務用総合食材、老人医療用食材卸
エ コ ラ ボ 株 式 会 社	03-5285-2653	松 野 泰 明	業務用洗浄剤、殺菌剤の製造・販売
株 式 会 社 せ ん だ い	055-262-1170	伊 藤 孝	納豆の製造販売
カゴメ株式会社東京支社	03-3861-7011	原 野 樹 里	食品・飲料製造販売

社 名	電 話	担 当	業 務 内 容
伊 那 食 品 工 業 株 式 会 社	0265-78-1121	向 山 慎 太 郎	寒天・介護食用寒天製品・家庭用食料品（デザート等）の製造・販売
ト オ カ ッ フ ー ズ 株 式 会 社	045-564-5741	森 田 道 昌	弁当・おにぎり・サンドイッチ・惣菜・麺類などの調理済食品の販売および冷凍弁当、冷凍惣菜などの製造・販売・宅配
株式会社日本食生活改善指導会 東京本部 関東事業所	042-730-8323	豊 澤 範 衡	無水鍋など調理器具の PR
(株) 保 健 教 育 セ ン タ ー	03-3459-0388	井 田 章 子	特定保健指導事業・各種健康セミナー等事業
株 式 会 社 フ ァ ン デ リ ー	03-5249-5080	種 田 聖	栄養士による食事の宅配・栄養相談、医療食の通信販売、栄養士のポータルサイト運営など
旭 化 成 フ ァ ー マ 株 式 会 社	026-224-7515	渡 邊 史 乃	医療用医薬品の製造、販売、ヘルスケア製品、流動食の製造、販売
株 式 会 社 お ぎ そ	0572-59-8639	塚 本 北 斗	学校・保育園・病院・福祉施設の給食用食器、リサイクル強化磁器食器の製造販売。破損した強化磁器食器の回収・リサイクル等環境に配慮した事業活動
丸 大 食 品 (株) 中 部 特 販 営 業 課	054-623-8617	杉 本 典 昭	ハム、ウインナー、惣菜の製造・販売
(株) サ ン プ ラ ネ ッ ト 健 康 事 業 本 部	03-5978-1953	岡 田 守 正	食品の販売（飴、ゼリー、特定保健用食品など）
株 式 会 社 コ ー ゲ ヅ	055-274-5701	加 藤 良	冷凍調理品、チルド品、デザート類、食材関連品の卸販売ならびに物資流通業務
生活協同組合パルシステム山梨	055-243-6327	原 田 芳 江	生鮮食料品、一般食品、家庭用品、衣料品を直接またはカタログを使用して生協組合員に供給する事業
株式会社クイジナートサンエイ	03-5642-6231	伊 藤 英 人	業務用フードプロセッサーの販売
味の素冷凍食品(株)東日本営業部	03-5798-8653	地 濃 雅 実	冷凍食品の研究開発・製造・販売





事務局からのお願い



平成24年度会費は、3月31日までにご納入くださいますようお願いいたします。

平成24年度栄養士会費 14,000円

内 訳

- ・山梨県栄養士会費 7,500円
- ・日本栄養士会費 6,500円

会費納入方法

- 1 自動引き落としの手続きがしてある方
4月10日(火)に自動的に引き落とされます。(引き落とし手数料は会員負担です)

2 山梨中央銀行から振り込む方

振込口座：山梨中央銀行甲府駅前支店
(普通) 287296 (社) 山梨県栄養士会

振込み手数料(会員負担)	ATM 扱	窓口 扱
山梨中央銀行甲府駅前支店から	105 円	105 円
上記以外の山梨中央銀行から	105 円	315 円

3 ゆうちょ銀行から振り込む方

振込口座：10890-11752671
(社) 山梨県栄養士会

振込み手数料(会員負担)	ATM 扱	窓口 扱
通帳から振替	無料	140 円
現金を振込	120 円	120 円

特にお願い！

毎年の会費の納入のために、自動引落としの手続きをお取りくださいますようお願いいたします。(公共料金の支払いと同様の手続きです。)

通帳及びその印鑑を持参して、山梨中央銀行本店・支店またはお近くの郵便局に出向いて、「会費の自動払込み手続きをしたい」と申し出てください。

振込先口座

- ・山梨中央銀行から振込む方
名称：預金口座振替依頼(手数料105円)
口座：山梨中央銀行甲府駅前支店
(普通) 287296
(社) 山梨県栄養士会
- ・ゆうちょ銀行から振込む方
名称：自動払込利用申込み(手数料25円)
口座：10890-11752671
(社) 山梨県栄養士会

*振込忘れ防止や事務局の事務軽減のためにぜひご協力をお願いいたします。

1月31日(火)までに手続きを完了いただきますと、平成24年度会費から適用されます。(手数料は会員負担です)

尚、御不明の方は事務局にお問い合わせください。

☆事務局の年末・年始について

平成23年12月29日(木)～平成24年1月4日(水)まで休みます。

◎編集委員

田草川憲男、石坂恵子、堀口一美、
窪寺ゆかり、杳川洋子、塚原順子、
天野江津子、小澤與志美、
吉原京子、石井静恵



編集後記

兎年もあっという間に終り、新年は辰のように天高く希望を持って躍進していきたいと思えます。

暮の忙しい時にもかかわらず、原稿にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。今年もよろしく。

編集委員一同

栄養やまなしNo.94 平成24年1月1日

発行所 社団法人山梨県栄養士会

〒400-0805 甲府市酒折1丁目1-11

T E L 055-222-8593(FAXも可)

055-222-8140

ホームページアドレス <http://www.eiyouyamanashi.com/>

メールアドレス yamaei@eps4.comlink.ne.jp

印刷所 (有)オズプリンティング